

# 寄せられた意見

No. 3

受付日	H17. 2.10	年齢	36歳	居住 市町村名	函館市
件名	天塩川の河川整備(サンルダム)に関する意見書 サンルダムの無用性について				
<p>最上流域のダムは、河道の貯留効果、洪水到達時間、また他の支流からの流入により、流域の治水には効果は期待できない。まして天塩川水系の3%の流域面積しかもたないサンルダムを建設しても、ダム直下のごく一部を除き、現実の治水効果など発生しないと考えられる。</p> <p>ダム下流では河床や河岸の洗掘現象が生じることが知られており（北海道開発局製作資料集『二風谷ダム建設の歩み』ほか）、ダム建設自体が、新たな別種の災害の要因になることが、今や明らかである。</p> <p>また、ダムは満水になればその治水効果は失われ、さらに一定水位流量をこえると、ダムの存在自体が危険となる。流域委員会では、ダム自体の限界（設計洪水流量、設計洪水位）が示されていないようであり、議論の進め方として大きな問題である。</p> <p>利水においても、名寄市の人口は20年間で20%減少しており、市の総合計画が今後の人口減を前提に組み立てられている。したがって、早急な新規利水の必要性は薄い。</p> <p>名寄市では人口減の一方で水道施設の拡張を続けており、この財政負担から、今後4年ごとに水道料金の値上げが必要になるとされている。サンルダムを建設することで、この4年ごとの値上げが、たとえば2年ごと等になるのではないか。</p> <p>また名寄市の財政難から、この拡張計画も見直しが必要であるとされており、ダムによる利水根拠は一段と薄くなる。</p> <p>発電においては問わずもがな。小型イカ釣船8隻ぶんにも満たない発電出力で、いったい何がしたいのか？</p> <p>必要性のない、無駄なダム建設のために莫大な税金を注ぎ込み、国民の負担を増やし、かつ流域の自然環境を破壊することは、現代日本最大の愚行の一つといえよう。</p> <p>無駄なサンルダム計画の取り止めと、真に地域国民のためになる開発をお願いしたい。</p>					